

授業科目名	国語学 (2100129)		
時間割名	国語学 (15105)		
時間割担当	桑原祐子		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・5		

授業の目標・概要

言語研究は、形態・意義・職能の3つの部分からなっており、それぞれ有機的な繋がりを持っている。本講義では、形態と意義を中心に学ぶ。形態の分野として日本語の音声・音韻、文字・表記を、意義の分野として語彙・意味を取り上げる。合わせて、各々の分野における言語現象の歴史の変遷についても学ぶ。

学習の到達目標

日本語を構成する音韻及び音声についての認識を深める。日本語文を表記する漢字の受容、平仮名・片仮名の成り立ち、国語国字問題などを理解する。日本語の語彙の種類を理解する。以上の各分野についての日本語の変遷を理解する。

授業方法・形式

講義形式である。テキストに沿って、具体的な言語現象について解説を行うが、受講生の積極的な発言を促す。毎時間、所見カードの記述を求める。

授業計画

- 第1回 国語学と日本語学とはどのように異なるのか。
世界の中の日本語を考える。
- 第2回 音声による言語表現1
音声とは何か、音韻とは何か。
- 第3回 音声による言語表現2
現代日本共通語の音節にはどのようなものがあるのか。
- 第4回 音声による言語表現3
どのような音が変化してきたのか。音韻はどのように変遷してきたのか。
- 第5回 音声による言語表現4
日本語のアクセントには、どのような特徴があるのか。
- 第6回 文字による言語表現1
日本語は、どのようにして漢字を受容したのか。
- 第7回 文字による言語表現2
平仮名や片仮名はどのようにして成立したのか。
- 第8回 文字による言語表現3
読みのプロセスから見た日本語文表記の特徴は何か。
- 第9回 文字による言語表現4
仮名遣・国語国字問題はなぜ起こったのか。
- 第10回 日本語の語彙の特質1
日本語を構成する語彙は、どのように分類されるのか。
- 第11回 日本語の語彙の特質2
日本語の語彙には、どのような位相があるのか。
- 第12回 日本語の語彙の特質3
日本語は、外来の言葉をどのようにして受容してきたか。
- 第13回 日本語の通時的研究
音声による言語表現の限界をどのようにして克服してきたのか。
- 第14回 日本語の通時的研究
文字による言語表現をどのようにして発展させてきたのか。
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

定期試験60%、所見カード20%、授業への参加度20%の割合で、総合的に評価を行う。

授業時間外の課題

1. テキストを読み、知らない文献や資料について調べておくこと。
2. 身の回りの具体的な言語現象についての収集を心がけること。
3. 不思議に思うこと、疑問に思うことは、積極的に質問し、問題提起すること。

メッセージ

日本語に関する事柄について、様々な情報を収集すること。
私語・飲食は禁止。携帯電話等の使用禁止。

教材・教科書

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院）

参考書

金田一春彦 『日本語の特質』（NHKブックス）

山口仲美 『日本語の歴史』